

平成27年度 両荘中学校学校評価

A できている B だいたいできている C あまりできていない D できていない

| 領域 | 評価項目 | 評価 | 自己評価の顕著な結果・意見等 | 学校関係者からの意見等 | 改善策 |
|------------|--------------------------------|----|---|--|---|
| 学力向上 | 「学習意欲を高めるためのわかる授業づくり」 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の82%が「授業形態の工夫等、個に応じた指導に努めている」が、「基礎学力充実のため、個別の学習指導に努めている」教師は64%であった。 ・3年生の83%が「授業を通して関心興味を持ったことがある」と回答した。(1年生65% 2年生73%) また、学年に僅差があるものの、全校生の80%近くが「楽しくわかりやすい授業がある」、「授業中、先生の話や他の人の発表を集中して聞くことができる」と回答した。 ・「授業の中で、どのように個に応じた指導を取り入れるかを検討する必要がある。」との教師の声があった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた個別の学習指導を、授業以外の時間をとって行うことはできないか。 ・つまずきのポイントを見つけて、フォローする機会をつくることは可能ではないか。 ・小テスト等を取り入れることで個人の進み具合をチェックし、進度を調整できないか。 ・一斉授業が基本であるため、個別指導に限界があることは理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を喚起しつつ、習熟度に合わせた個別の指導や援助の機会を設定していく。 ・学年が上がるにつれて難しくなる内容の理解や定着に向けて、生徒自身が課題を意識、追求、学びあえるよう指導方法の工夫を行う。また、効果的であった指導法等について教師が共有できるような研修を実施する。 ・小テストや単元テスト等を取り入れ、生徒の理解の状況を把握し、必要に応じて補足的、発展的な学習等を授業の中で実施する。 ・個に応じた指導に係る加配教員を効果的に運用し、すべての教師が個別の習得状況等を共有して、わかる授業を展開する。 |
| | 「自主的・主体的な学習習慣と基礎学力のための家庭学習の定着」 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の約70%が「教科書・プリント等の内容をおおむね理解している」と回答したが、保護者の「子どもが、学校での学習内容をおおむね理解している」との回答は60%であり、生徒と保護者に差が認められた。 ・生徒の約80%が「学習面のわからないことは、自分で調べたり、先生や友人に聞いたりする」と回答した。(1年生73% 2年生85% 3年生85%) | <ul style="list-style-type: none"> ・宿題をとおして、家庭学習が定着するよう家庭でできることは協力したい。 ・先生方と連携し、学校での学習状況を理解し、家庭学習を支援できるようにしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・反復学習等の指導方法を工夫するとともに、家庭での学習課題の適切な設定により、学習習慣の定着を図る。 ・効果的な家庭学習の実践事例を示し、その大切さを理解させるとともに実践につなげる指導を行う。 ・学校での学習状況について保護者に理解いただくために、教科担任・学級担任・保護者との連携を深め、家庭の支援と協力を得る。 |
| 規律ある生活 | 「望ましい生活習慣の育成」 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・86%の教師が「生徒指導上の課題に対する共通理解と同一歩調での対応に努めている」と回答した。 ・学年に僅差があるものの、全校生の80%以上が「学校生活は楽しい」と答え、90%以上が「あいさつや返事ができる」と回答した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣は身につけている。 ・学校、家庭、地域、それぞれの生徒の様子を知ることが必要である。 ・2・3年生に比べて1年生は自分の意見が言いにくいようである。 ・怒るだけではなく、生徒の良いところを見つけて褒めることが必要ではないか。関わりを持つことが大事ではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員同士の連携を密にすることで、生徒指導における共通理解を図る。また、学校生活に係る規定等について生徒会を中心に検討する。 ・あいさつや返事、時間を守ることは、自己評価だけでなく、他者評価もとりいれる。 ・学級活動や生徒会活動、道徳教育の充実を図り、生徒の自治力や正義感を高めるとともに、学校生活の改善・向上を目指す。 |
| | 「生徒理解と信頼関係づくりのための相談活動や個別指導の充実」 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・「不登校生徒に対する積極的理解ときめ細かな支援に努めている」と回答した教師は64%であった。 ・「自分の意見が言いやすいクラスである」と答えた生徒は、1年生33% 2年生75% 3年生68%。「周囲に間違っただけの言動がある時は注意したり、先生に報告するようにしている」との回答は、1年生29% 2年生70% 3年生48%となり、学年によって差が認められた。 ・保護者の約80%が「気軽に先生に相談できる」と回答したが、「相談できる先生がいる」との肯定的な回答をした生徒は59%で、保護者と生徒に差が認められた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの利用の仕方を学校で指導して欲しい。 ・生徒主体でルール作りができないか。 ・親も教師も情報機器についての知識を深める。 ・携帯やスマートフォンを持たせているのは親。各家庭でもルールを決めて使用する。 ・意見の出しやすいクラス作りをすすめて欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師と生徒の信頼関係を高めるため、一人一人に寄り添う生徒指導を推進する。 ・全体指導と個別指導を使い分け、授業を通して心の通う生徒指導を行う。 ・「ノー部活デー」を推進し、放課後等に生徒と教師が共有できる時間を確保し、補習や進路相談などの個別指導の充実を図る。 ・自分の意見が言えるクラスをつくるために、情操教育を行うと共に、リーダーを育成する。 ・データの共有化等の業務改善を推進し、生徒との人間関係を構築する時間を確保する。 |
| | 「行事や部活動による良好な人間関係づくり」 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・80%以上の教師が「生徒会活動の充実」に努めている」と回答した。 ・「感動した学校行事があった」と回答した生徒は、1年生47% 2年生80% 3年生88%と、学年によって差が認められた。 ・「地域の行事やボランティア活動に積極的に参加した」と答えた生徒は約50%であった。 ・全生徒の80%以上が「部活動は楽しい」と回答した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がれば気持ちが高まり、部活動や行事で感動できる生徒が多い。 ・ボランティアに自発的に参加し、地域の先頭に立てる中学生を期待する。部活単位でのボランティア活動なども増えてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各行事等の目的や内容を生徒と教師が共通理解し、系統的・計画的な実践を通して、生徒・教師間の信頼関係を構築する。 ・学校行事の精選に当たっては説明責任を果たす。1年生については、成就感や達成感を味わわせる活動を取り入れる必要がある。 ・ボランティア活動や日々の生徒会活動の意義を生徒と教師が共通理解し、学年やクラスは言うまでもなく、部活動としても参加を呼びかける。 ・すべての部活動を複数顧問とし、顧問が部活動指導に取り組めるよう環境整備を行う。 |
| 豊かな心・豊かな環境 | 「道徳の授業と人権教育」 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の77%が「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導に努めている」、73%が「励まし支えあう学級集団作り」に努めている」と回答した。 ・80%以上の生徒が「自分以外の人困っている時は助けようとしている」と回答した。 ・2・3年生では90%以上、1年生では80%以上の保護者が「子どもは、道徳観や人権感覚を身につけている」と評価した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年より道徳の時間が増えたと感じている生徒もあり、家庭でも話題にのぼることがあった。道徳観、仲間意識、友人との信頼関係も学年が上がるにつれて上がってきているのを感じる。 ・この地域ならではの密接な関係からか、先輩や年上への敬語を使えていない生徒が気になる。 ・地域ボランティア活動への参加が一部生徒にかたよらず、広く参加できるように呼びかけてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業や日々の生活を通して、カウンセリングマインドを生かし、教師と生徒との信頼関係を築いていく必要がある。 ・教師の研修を深め、生徒との関係をより良好にできるように、個々の生徒への支援につとめる。 ・地域とのつながりを大事にして感謝できる生徒の育成を目指し、地域ボランティア活動により多くの生徒が参加できるように、呼びかけを行う。 |
| | 「心和む美しい学校を目指した環境づくり」 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・2・3年生の保護者では90%以上、1年生の保護者では80%以上が「学校はきれいで落ち着いた環境になっている」と評価した。 ・80%の生徒が「優しい声かけや協力、手助け等、人のためになることをしようとしている」と回答した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がれば気持ちが高まり、部活動や行事で感動できる生徒が多い。 ・ボランティアに自発的に参加し、地域の先頭に立てる中学生を期待する。部活単位でのボランティア活動なども増えてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・施設の安全、環境整備をさらに充実させる。 ・教室や周囲の環境整備に向けて、生徒への声かけを積極的に進め、環境整備への意識を高める。 |
| 信頼される学校 | 「学校生活の公開と広報活動の充実」 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・90%の教師が「学校と家庭の連携を深めるために保護者への誠意ある対応をしている」と答えており、80%以上の保護者が「資料を通して、学校の指導方針や取り組みがよくわかる」と評価した。 ・保護者の約90%が「学校から配布されるプリント等の文書は、わかりやすく丁寧なものになっている」との回答であったが、「学校からの配布物やプリントを、お家の方に渡している」生徒は1年生75% 2年生88% 3年生71%であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・配布物を保護者に渡すように教師が一言添えているので、配布される割合が上昇したと考えられるが、不十分な面も見られる。 ・配布物が確実に保護者に配布される工夫が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活ノートを有効活用し、保護者向けプリント・生徒向けプリント等の閲覧協力をお願いする。 ・ホームページのさらなる充実を図る。また、ホームページへの関心度を確保するため、カウンターを設置できないか。 ・重要な配布物は別の封筒を使用する等して、保護者による確認を得やすくする。 |